

指標名: 鉱工業生産指数(2008年4月)

発表日2008年5月30日(金)

～当面、横ばい圏内の動きが続く見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

○ 2ヵ月連続の低下

4月の鉱工業生産は前月比▲0.3%となった。事前コンセンサス(▲0.6%、レンジ▲1.2%～+1.3%)は若干上回ったが、3月に同▲3.4%と大幅低下した後にもかかわらず2ヵ月連続の低下となっており、弱めの結果であることには変わりない。生産は足元で停滞感を強めている。輸出の減速や景気の先行き不透明感の強まり等を受け、企業は足元で生産活動にかなり慎重になっているようだ。

業種別にみると、電子部品・デバイスや情報通信機械といったIT関連財の落ち込みが目立っている。IT関連財は昨年10-12月期まで生産の牽引役となっていたが、2008年入り以降は一転して押し下げ要因になっている。IT輸出の減速や部品価格下落に伴う生産抑制が影響していると思われる。また、在庫率についてもこのところ急激に悪化しており、IT分野における在庫調整圧力の強まりが今後の生産を抑制するリスクには十分注意が必要である。

○ 当面、横ばい圏の動きに

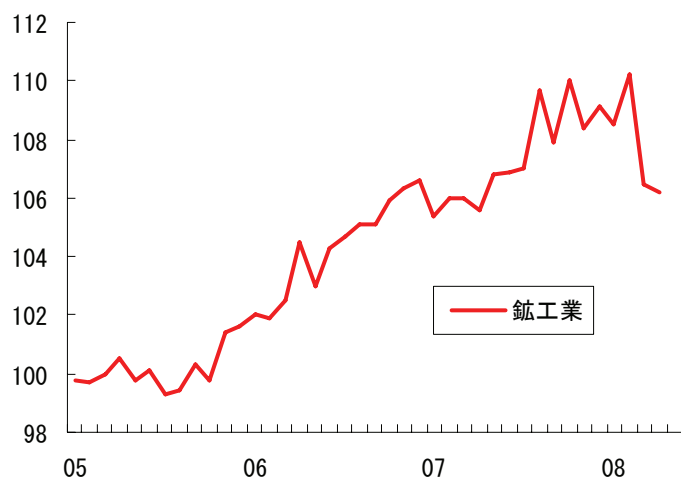
5、6月の予測指数は、それぞれ前月比+4.7%、▲0.9%と、比較的強めの生産が見込まれている。この予測指数が実現すれば、4-6月期は前期比+0.7%となる。ただし、生産がこのところ弱含んでいる情報通信機械工業で5月に同+14.1%とかなり高い伸びが計画されていることなど、5月の+4.7%という数字の実現可能性にはやや疑問も残る。また、GWを含む5月は例年季節調整が難しく、曜日配列の関係から強めに算出されている可能性があることにも注意が必要である。4-6月期が最終的に前期比マイナスとなる可能性も現時点で否定はできないだろう。2008年前半の生産は停滞感の強い状況が続くと予想される。

ただし、①鉱工業全体でみれば在庫は低水準に抑制されており、在庫調整圧力は大きくないこと、②IT部門についても、強めの予測指数や半導体部品市況の下げ止まりなどの好材料から、調整が一段と深まることは避けられる可能性が高いことなどを考えると、この先減産度合いが強まっていくというよりは、横ばい圏内の動きが当面続くとみるのが妥当と考えている。

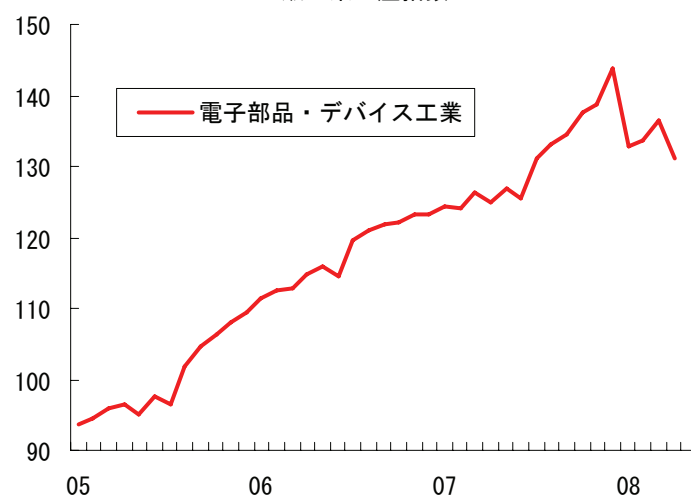
○ 4-6月期のGDPは弱めか

設備投資の動向と関連の深い資本財出荷(除く輸送機械)は前月比+1.3%とプラスに転じた。ただし、1-3月期比でみると▲2.8%と弱い。輸送機械を含む資本財でも1-3月期比▲3.7%と低迷している。また、消費財出荷も4月単月では前月比+2.9%と増加したが、1-3月期比では▲0.5%とやはり弱めである。4-6月期の発射台となる4月の設備投資、個人消費動向を筆者は注目していたが、結果はやや期待外れであった。4月の貿易統計で輸出の減速が示されたこととも合わせ、4月のGDP関連経済指標は下振れ気味である。4-6月期のGDPを筆者は前期比年率+0.2%と予想していたが、マイナス成長の可能性も視野に入ってきた。

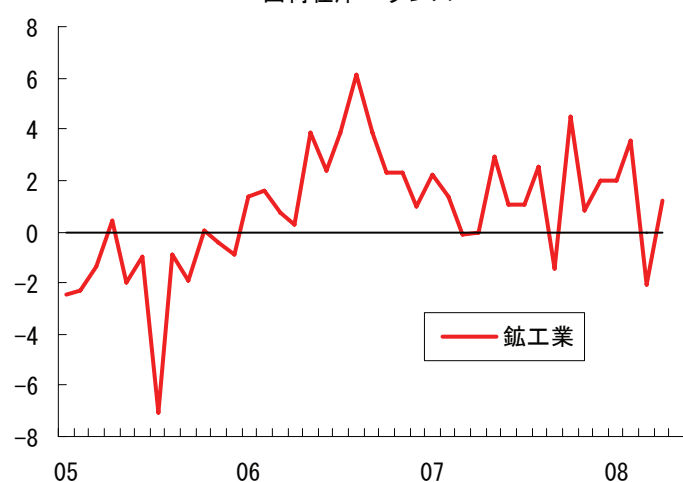
鉱工業生産指数



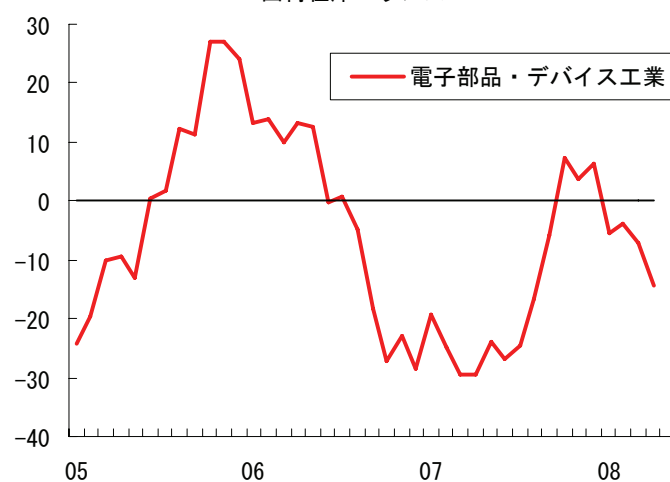
鉱工業生産指数



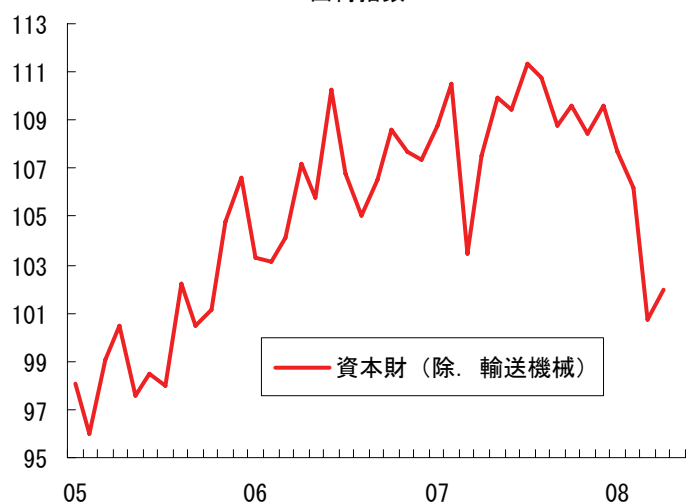
出荷在庫バランス



出荷在庫バランス



出荷指数



出荷指数

